

美世志会と共に平和な社会の実現に向け、 秋のたたかいに全組合員が総力を結集しよう！

2002年11月1日に発生した「えん罪・JR浦和電車区事件」から今年で16年が経過する。この16年に及ぶ広範なたたかいを創造してきた全組合員の奮闘に敬意を表する。

不当逮捕された美世志会は、取り調べの中で「内側から壊せないから外から壊す」「平和運動なんて生意気だ」「組織を半分にしてやる」と言われたように、事件の本質は労働運動や平和を希求する活動を破壊しようとする国策捜査・国策弾圧であった。

美世志会は、厳しい取り調べと344日に及ぶ長期勾留の苦悩を仲間と組織を信じることで乗り越え、JR東労組を守るために最先頭でたたかい抜いてきた。そしてJR東労組は、全組合員・多くの連帯する仲間と共に美世志会と家族を守るため、組織を強化しつつ攻撃を跳ね返してきたのである。

しかし、18春闘では情勢認識と組織実態を十分に分析せず、「格差ベア永久根絶」方針を強行したことにより、組合員の信頼を低下させ、大量脱退を生み出すという「大敗北」を喫してしまった。この経過を総括し、新生JR東労組を職場からのたたかいで創造することが求められている。

安倍首相は、多くの国民の意思を無視し、戦争する国へ向け突き進んでいる。私たちの働くJR東日本は、ひとたび戦争が起きれば、2006年に制定された国民保護業務計画に基づき行動をすることになり、攻撃の標的にされてしまう。働く者のみならず乗客までも、安全・生命が脅かされるのだ。

私たちは、これまでの運動の総括に立ち、組合員一人ひとりが憲法改悪を自分自身の問題として捉え、戦争反対の立場を明確にして実践することが求められている。職場議論を通じ、美世志会と反弹圧のたたかいで連帯した仲間たちと共に平和な社会の実現を目指さなければならない。

昨今、悪質な列車妨害が多発している。2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックの成功に向け、重要な輸送を担う使命を自覚し、悪質な列車妨害に対して警戒心を高め、職場内での不安要素を払拭し、安全・安定輸送に全力を傾注しよう。

働きやすい職場づくりや労働条件の向上は、組織力がなければ勝ち取ることは出来ない。労働者にとって平和な社会をつくることも然りである。そのため15年にわたって開催してきた「11・1集会」は、全機関が秋のたたかいに集中するために見送ることとした。

この16年間のたたかいの軌跡を再確認し、組合員の利益を守ることと同時に、不当にも懲戒解雇となった美世志会を守り抜くために、組織強化・拡大に向けて全力で邁進しようではないか！

**JR東労組運動を強化するため、全機関が秋のたたかいに集中しよう！
組織への信頼を取り戻し、新生JR東労組を職場から創り出そう！**

2018年10月11日

東日本旅客鉄道労働組合
第8回中央執行委員会